

目標)・自分でもやってみたいという気持ちを持つ  
・大人との関わりを楽しみ、やりとりを使用とする気持ち育てる。  
・口手名に応える。  
・言葉の理解を深める。  
・友達を意識し関わる。  
・カード(写真、絵)等の視覚教材を使用し、活動の見通しを持ちやすいようにする。  
・排泄児に尿意を知らせるサインやしぐさ、表情を出せたら、その都度褒める。  
指導方法)・ボールの受け渡し等、本児の取り組みやすい人との関わりややりとりを休み時間等に行う。  
・繰り返すことで、理解を促す。  
・呼名の前に、意識を向けるように声掛けするなど促す。  
・本児の表情や発声、動作等に注意し、要求を受け止めていく。

例えば、物をどこか違う場所に置いて欲しい。その時は職員の手を持って、意思表示ういされる。その際、本人の意図に気付かそうとして、両手をパンパン合わせる。逆に、Noの意思表示として手を振る。

・人との関わりが自分から持て、表出言葉はありませんが、内言葉を豊かに持っていた生徒でしたので、自分の気持ちや何か伝えようという様子が見られた時など、必ず同調するように、言葉を返していました。又、長く説明するのではなく、短い言葉で短的に伝えるように心がけていたと思います。サインカード、身振りよりも言葉で伝えることが多かったです。  
・本人からの意思がなかなか伝わりにくいこともありましたが、前後の行動や状況から判断していたことが多かったと思います。

サインや写真、絵カードを手がかりに理解している。

人には慣れてくると愛着は育っている。うれしい時には大きな声を出し、身体の取り組み等で辛くなってくると、泣きそうな表情になったりと喜怒哀楽の表現が少しずつ出てきた。サインやカードを使っての表現方法の獲得にはまだ難しく、こちらが表情をよみとりながらコミュニケーションをはかっている。やはり、慣れた人間関係になってくると簡単な言葉の指示(ニュアンスで読み取っているか?)は通りやすくなってくる。

目標:

- ・写真カードやサインによるコミュニケーション。
- ・発語を促す。

取り組み:

- ・写真カードを使って、これからの予定を把握させる。(行く場所やトイレなど)
- ・トイレのサインでトイレに行く
- ・名前よびで、マイクを向けると声を出す。

すべて良好で意欲的である。適切なかわり方を課題にしている。

・取って欲しい物に対しては、写真カードの提示や指さし、具体物で要求できる。行きたい場所がある時も、写真カードを持ってきて大人に見せることができる。  
・YES(手を上げる)、NO(手で押す、顔を背ける、発声)の意思表示がはっきりしている。  
・発語は「ママ」。「あー」「うー」などの発声は見られる。喃語のような声の出し方で教師に話しかけてくる場面が見られるようになり、声の抑揚にも幅が出てきた。  
・身振りサインは「トイレ」の言葉掛けで下腹部を触ることもある。その他は「バイバイ」「さよなら」で手を握る。「ごちそうさま」で頭を下げる。  
・「牛乳」「マヨネーズ」「パン」「ボールプール」など好きなものや場所は言葉や写真で理解しているようである。

〈コミュニケーションの基礎的能力〉＊他の項目にもコミュニケーションにかかわる部分がおおくあります。

★愛着関係

沢山の教師の中での、特に身近に接する担任や、かつて担任だった教師など、親密度の差に応じて表情や態度などが変化する。また、自分のスキンシップの要求に応じてくれる教師とそうでない教師とを区別している。

★意志伝達意欲

自分のところに来て欲しい相手に人差し指を向け、小刻みに指を曲げ伸ばして「来てちょうだい」という意思を表す。

〈言葉の受容と表出〉

「パパ」「ママ」「テンテ(先生)」の発語がある、使用対象は特定せず、明確な区別が無い。学校では、教師に対して「テンテ」と呼ぶように促している。また、トイレで「デダ(出た)・デネ(出ない)」の発語がある。「デダ」と「デネ」の区別はついていない。

〈コミュニケーション手段の選択と活用〉

＊排泄に関するサインは排泄の欄に記載

＊アイコンタクトや身振り等についても他の項目参照

- ・自分の名前を呼ばれると、振り向いたり、頭を動かしたりすることができました。
- ・教師が目の前で名前を呼び「はい」と手をあげる姿を見せると、教師が揚げたてを振ったりすることが出来ました。
- ・嫌なことや苦手なことに対して、表情が陰しくなり、顔の表情で好き、嫌いが分かる。
- ・人との愛着関係は育っており、母親や好みの先生に対しては、積極的に自分からかわりを持つ姿勢がみられました。

〈到達目標〉

- ・自分の思いを表現し伝える方法を獲得する。
- ・言葉やサイン等で理解出来ることを増やす。

〈指導方法〉

- ・日常生活で必要な物の名前等を繰り返し聞くことで理解する。
- ・絵カードや写真等を見る。

〈課題〉

- ・言葉やサイン等の理解力を高める。

愛着関係については、自分によく関わり、自分でも「この先生は知っている」と理解ができると、そういう人に対しては、とても愛着を持って接する。逆に初対面の人に対しては、一目、相直があるように見えるが、服を強く引っ張る、メガネを取る、手をかむ等の行動がある。また、信頼関係という点では、2年間の指導で私との関係の中で着替え等はとてもスムーズになった。他の先生では、未だに抵抗してダメな時もある、意志伝達意欲も強くなってきた。サインが少なく、みんな同じサインを出してしまうのであるが、明らかに「僕も一緒に」とか「こんにちは」(知っている人に)「〇〇がやりたい」等の意志をもってサインを出そうとしている場面があった。サインを何とか増やしたいのであるが(そして増えそうな気がする)現段階ではまだ、サインが増えていない。

親しい人には手を伸ばしてスキンシップをはかる。

- ・毎朝学校で会う時、口を大きく開けて、とびきりの笑顔で喜びを表してくれます。知っている教師には自分から手をのばして関わっていきます。
- ・保護者会などでお母さんが来られて姿が見えなくなると、泣き顔になったり、キョロキョロして捜しています。
- ・洋服を着せて欲しい時は、洋服を自分で持って担任の所へ来ます。ファスナーをしてめて欲しい時は教師の手をファスナーに持って行くなどして気持ちを伝えます。「ベストを着せて」と言ってベストを教師の所へ持ってきた時、わざと教師がそのベストを着ると、ベストを引っ張って脱がそうしました。
- ・理解力の向上については、前ページに書いたようにカード学習を行い、今後も写真を提示して行動したりサインを増やしていくことが大事と考えています。

(到達目標)

- ・直接、具体物を指さしたり、体で表現したりする等様々なコミュニケーション手段を身に付ける。
- ・担任や友達との関わりを深める中で要求を出す。

(指導方法)

- ・本人から出てきたアピール(指さし、体での表現)をこちらも繰り返し、伝わる成功経験を積み重ねる。

- ・あいさつ、名前を呼ぶ機会を継続的に設定。教師が手本を示すなど望ましい在り方を示す。
- ・活動の中で、「かして」「ちょうだい」「どうぞ」などのやりとりをしたりする場面を設定し、教師が身振りや言葉で示す。
- ・学校生活全般を通して、本児童からの意思表示を受け止め、場面に合わせた身振りや言葉を示す。

「座るよ」「おしまい」など、指さしや、教師の動きなどをよくみて状況で認知していることは多い。

(人とかかわり)名前を呼ばれると、呼んだ方を見て、「うう」と声を出して応えたり、笑顔になって近づいたりする。  
(自己表現)・容器と中に入れたいものを教師に渡し、入れて欲しいなど気持ちを伝える。また、アイコンタクトでも伝える。

- ・歌って欲しい時には、教師の口元に触れて知らせる。

発語・自分から教師に近づいて行って、「あぼぼ(遊ぼ)」と発声し、一緒に遊びたい物を教師に伝えて、要求を動作で伝える。

- ・食べ物欲しい時に、皿を出したり、一緒に遊びたい物を教師に伝えて、要求を動作で伝える。

- ・ひもを手渡し、台車を動かして欲しい、鍵にふれてドアをあけてほしいなど、自分の要求を伝えられる。

発語・「あんま(水)」「んまんま(給食・おやつ)」などの発声がある。

- ・おやつを食べる時には、車イスに座ることがわかり、言葉や指さしで自分から車イスまで歩いてきて、座ることが出来る。

(課題)

今年度になり、体の動きを止めて、身近な担任が伝えていることを聞くようになった。簡単な言葉かけ、活動でいる力をつけていきたい。要求を手さしや、サインで伝える力をつけていきたい。

人と関わろうとする姿勢は強い。ふだん関わりがない教員や教育実習生など初対面の人に対しても積極的にコミュニケーションを取ろうとする。だいたい、ニコニコしていて気持は良いが、何か意に添わないこと、不満や要求がある時に努めたような唸り声を発することがある。サイン等は明確に定着している物はない。

基本的には本人が決めた信頼できる教員に対しては、本人なりに不完全な発声ながら「デデー」→「先生」と言いながら次にやるべき事の確認や訴えたい事を伺う事ができた。会話の中では自分の事を話題にされていると感じ取る事が早く、内容が指導、助言、注意であったりすると、両耳を押さえて、聞かない振りをしたり、そのまま立ち去ったりしていた。又、ほめられる内容の時は自分で手を叩き、頭を下げて嬉しそうにしていた。周囲の会話に対する理解力は非常に高いと思われる。信頼できる特定の教員は、勿論であったが、環境や周囲の人間関係に慣れてくると関わりたい人を舌でなめる等の行動でかかわっていた。指導としては、相手にいやがられる様なサインはあまり好ましくないので、その都度、言葉で注意したが、昨年度まではむやみに相手を叩く等でコミュニケーションを求めて来たが、今年は舌でなめる等、求め方に変化が見られた。

到達目標

- ・簡単なコミュニケーションをとることができる。(自分の要求を伝える事ができる。簡単な言葉を理解してこうどうすることができる。)

指導方法

- ・「ことば」の部分で記入

課題

- ・支援ツールなどを使ったコミュニケーションはできにくい。
- ・発語がないため、本人が一生懸命何かを訴えてもこちらがわからないことがある。

人と接するのが好き。積極的に近づいてくる。トイレはトイレサインで分かる。集会や儀式等で静かに話を聞いておく事が出来る様になった。周囲を見て起立することもできるようになっている。

大人が代弁しながら関わる。楽しい雰囲気が好き。好きな友達がいると関わろうとし、手を伸ばしたり、声を出したり、抱き付きに行ったりする。意思表現方法は、大人の手を引っ張る、自分でしたい事、もののところへ行き、持つてくることが多い。

朝の会の歌の絵、終わりの会の歌の絵を選ぶ事が出来る。自分の写真カードがどれかわかる(二択の場合)

〈言葉の理解と人との係わり〉

・発語はないが言葉の理解力は高く3語程度での話しかけであれば大体理解する事が出来る。しかし、学習場面において解る発問や指示に対してもふざけてしまい応じられない事が多い。学校教育の現場では特別支援学校においても、出来た事を誉め自尊心や自己肯定感を高め、課題に対する意欲を育てていくことが柱となるが、その気持ちを本人の中に育てていくことが難しい。

〈意思表示と人との係わり〉

・大人への愛着が強く自分から積極的に係わりかけて一緒に活動を楽しむ事ができる。  
本人への意思を問う言葉掛けに対して、声やうなずき、手たたき等のしぐさで答える事ができる。  
・ほしい物が手の届かない所にあると、積極的に大人の手を引っ張り目標物に導くクレーン動作が良く出る。

上記の事柄は発信、受信共に比較的到達できていることが多い。更に理解を進めていく。また、受信はできても受容しきれず自分の意のままに行動する事も多い。そのため、自信を持たせる活動を通して自己調整能力を高める。

(実態として)

・人との関わりを楽しみ近づいていって、視線を合わせてやりとりができる。いくつかの要求や拒否を表現することができる。して欲しい時にクレーン行為が見られる。

(今年度の取り組みとして)

・友達との関わりを増やし、遊びの楽しさを実感し、自ら遊び道具を介して誘う様になってきた。

目)理解語を増やす

要求を自分なりの方法で伝える。

指)学校生活全般を通じた指導

訓練機関との連携

課)発声や指さして自分の要求を伝えられる様になってきている。

発声言語は常に接する大人は聞き取れる。今後、言葉を増やすこと。よりクリアーに発声することが課題。

〈目標〉・声やサインで伝えられることを増やす。

・友達との関わりを楽しめる様にする。

〈指導内容(実態)〉・呼名に声を出したり、手を挙げたり、うなづく様にして反応する。

・やりたいことや要求したいことは、手指しや声をあげて意思表示する。

・大人には自分から関わろうとする。教員に対し発声しながら腕を上下に繰り返し動かし、じゃんけんをするような動作を好む。片手で自分の両目をおおい、「いないいないバー」のような動作もよくする。逃げる様な仕草をして、追いかけて欲しいと要求する。「まで、まで」と行って追いかけると、喜んで走って逃げる。

・友達から関わりを求められると笑顔で応じようとするが関わり方がわからずとまどうことが多い。しかし、朝の会で名前カードを受け渡す時は、友達の手に触れることができる。

・幼少時から両親の愛情を受けて成長してき様子が伺われ、人は好きで甘え上手である。

★意思表示

〈到達目標〉

- ・排泄についての身振りと発声によるサインを、確実にする。

〈指導方法〉

◎股を押さえて「ウーッ」というサインを出したら「トイレね」と声をかけ、トイレに誘う。

〈課題〉

- ・トイレ以外のサインがまだ確立していない。

★理解力向上

〈到達目標〉

- ・写真カードをコミュニケーション手段にしていく。

〈指導方法〉

◎行動を支持する時、写真カード見せながら話す。言葉だけで伝える時は短くはっきりと。

- ・交流級や音楽の先生の写真で、「交流級に行くよ」「音楽に行くよ」

- ・本人が着替えている写真で「お着替えます」

- ・トイレの写真で「トイレに行く？」

- ・コップの写真で「水飲む？」

〈課題〉

- ・先生の写真カードは、その意味をほぼ理解した。

- ・それ以外は、写真よりむしろ言葉そのものでの理解が進んだようだ。(ゴミ箱にポン、で、ゴミを捨てられるなど)

- ・日常のいろいろなことは写真カードでは対応しきれないので、言葉のみの伝達になってしまう。それでもいくつかは写真カードを追求すべきか、迷っている。

- ・好きな人の所にはよつばいで移動し、遊んで欲しいことをアピールしている。

- ・色々な発声の仕方、相手と話をするようにコミュニケーションを取る場面がよくみられる。

- ・好きな人が側に来たり、目が合ったりすると笑顔で笑ったり、声を出したりする。

- ・カード学習に取り組んでいる。好きな物のカードを取って、指導者に手渡すとその物で遊べるという事は理解している。また、自分の好きな場所(ボールプールなど)の写真カードを手渡して、行きたい所を伝えることがあった。

- ・顔などをやさしく手で触れられることを好む。

- ・歩行している時に自分の行きたい所をつないでいる手をその方向へ動かして、自分の行きたい方を伝えることができる。

- ・連絡帳に係の先生に渡す時、声を出して呼んだり、背中などをたたいて合図をすることが出来る。

目標:心身状況を感じて知り、要求がだせようにする。

方法:まず、意思を表出できるような、受容的環境を整えるところから本人の発信を受け止め、受容、実行、制止、転換、折り合いをつける体験を積める様に配慮し、指導する。

目標・・・友達と仲良く過ごすことが出来る。ジェスチャー、サイン、カードなどを使って意思表示をすることができる。

指導方法・・・友達や教師との関わりや一緒に行動する機会をもつ。友達や教師の髪をひっぱったり、押したりしない様に促す。学校生活の中で意味のあるサインや言葉がふえるように促す。

課題・・・優しく、なでるように声かけや動作で伝えると真似ることができる。また、手をひらひらさせて「うれしい」や「晴れ」、手をぱちぱちさせて「お茶」や「お願い」など伝えてくることがあり、意思表示する場を広げて行きたい。

(ねらい)友達や先生と一緒に楽しく活動する。

声かけや具体物の提示により見通しを持って、集中して活動に取り組む。

(活動内容)ことばかすの授業の中で、模倣する力を育てたり、読み聞かせの中で、繰り返しの言葉をりかいたり内容を理解し、お話ごっこを楽しむ。

- ・楽しい、いやなどの気持ちを大切に作る。

(課題)身振りやサイン、ことばで自分の気持ちを伝えられる様にする。

人が好きで色々な教員に関心がある。知っている教員には自分からたくさん関わり甘えてくる。また、教員の気持ちを自分に向けたくて、教員が他の児童の関わっているとそばにいて、じゃまをしたりおきな声を出したりする。教員同士の会話の中に自分の名前が入っていると嬉しい。自分の思いは発声や表情みぶりで表現できる。また、相手の思いも受け止め、気持ちのやりとりをしている場面がある。母親が大好きで学校に母親が来校する時など、ずっと待っていて目を輝かせ母親のそばへ駆け寄る。明るい性格でコミュニケーションをとることを好む。日常的な指示は言語で理解できる。若い女性が好きで、こだわりがある。

- ・人を見ている。
- ・自分からコミュニケーションをとろうと、大きな動作をする
- ・誰とでもコミュニケーションをとりたくて、声を出したり、唾を吐いたり、いたづらをする
- ・無表情に接すると、テンションが下がり、おとなしくなることが多い
- ・怖い顔を見ると、いたづらをやめることもある
- ・相手の表情を見て、本児なりの判断をしていると思われる。

知っている人(両親、担任、前担任)等に会うと笑顔で近づいてくる。愛着表現になるのか、抱きつきにくることも多い。担任が書き物などをしていて構って欲しい時には、手をひっぱたり、服を引っ張って注意を引こうとする。自分のしたいことで、できないこと、分からない時には支援を求めてくることができる。例として、お茶が飲みたい時には水筒を持ってきて手渡しに来る。CDデッキをいじっていて音が出なくなったら、『直して!』という感じで持ってくるなど。(クレーン動作)また、取って欲しい物なども伝えられる。「かめ」と呼ばれる回転遊具に乗せて欲しいなど好きな遊びも積極的に要求できる。

言語によるコミュニケーションはできないが、簡単なサインは表現及び理解もできる。こちらの指さし(同時に言語による指示も出しているが)で物を運んだり、靴を指さすことで靴を脱ぐなど。ほんじからのサインとしてはトイレに行きたい。(すでに濡らして交換してくれの場合もある)に股間を触ったり、うなり声(気張り声?)で便意をもよおしたときなど。文字は理解しないが、写真はよく見る。移っている人や物を理解しているかどうかは不明である。人の顔をじっとみつめることができる。アイコンタクトかとも思われるが、こちらも見つめ返すとつばを吐くこともある。こちらが困った顔をしたり、怒ったりする反応を楽しんでいる様である。好きなこと(プロジェクターや音楽など)が終わるともつきたいと泣き顔になることがある。

- ・認めてあげることや、要求を満たしてあげることによって気持ちが通じ合える場面が増えてきた。
- ・写真カードを利用することで、何をするのか、どこへ行くのか、誰がいるのかなど、関心が育ってきた。

目標・コミュニケーションの手段を広げる。

指導方法・発声、ジェスチャー、写真カードなど、いろいろなコミュニケーション手段を用いて、人との関わりを楽しみながら、相手に伝えられる要求を増やす。

評価・課題

・ことばで自分の気持ちを表現することはできませんが、嬉しい時や、自分の気持ちが伝わった時には相手の顔を見て満面の笑顔で応えます。嫌な時や要求しない物が差し出されると、そっぽを向いたり、手でさげざったり、顔をしかめて大きな不満の声をだし訴えるなど、表情や声、行動などで伝えることができました。呼名に声を出して応えることもありました。分かる言葉も多く、「ここで待っていて」とお願いすると、落ち着いて待つこともできました。友達との良い関わりも見られ、友達が差し出した手にタッチして挨拶したり、友達が差し出したカードを受け取ったり、誕生カードを友達に渡したりすることもできました。写真カードの中から車いすカードを選び、車いすを要求し、自走式車いすを楽しむこともできました。

・バス降車後の運転手さんやバス介助員さんへの挨拶回りを楽しんでいます。また、教室に向かうまでの道中を自力歩行させると、他の教室に入り込むなどして人との関わりを楽しむ様子が見られました。握手で出迎える友達、遊びに来る友達もできています。そんな時には、笑顔をいっぱい見せたり、ハグしたりして友達に応えるなど、自分の気持ちを素直に出すことができている。

「お茶が欲しい」「〇〇がしたい」等いくつかの要求は具体物に向かって手で示したり、写真カードを指差したりして、ジェスチャー(両手を合わせての「ちょうだい」のサインなど)をしたりして、自分の意思を伝えることができます。

- ・「ごめんなさい」では、自分の頭を叩く動作を見せていました。
- ・作品などを見て褒めると自分の胸を叩いて「自分で頑張った」と訴えることもありました。
- ・身近な人の気持ちを察して共有したり、共感したりする場面も見せていました。
- ・相手のことばや表情から読み取ろうとする観察力や理解力も高いものを見せていました。



・人との愛着関係は声をかけてくれる人には、教員・生徒関係なく積極的に関わろうとします。ただし、その類ずりをする・表現が叩く・蹴る・髪を引っ張る・噛みつくなどの行為で現れ、興奮するほど強く出てしまいます。

・自己表現意欲はこの1年でかなり強く表れてきており「イエス」「ノー」ははっきりしており、「ノー」の時はがんとして動かない時もあります。

・サインは、うなずきの「イエス」手をバイバイのように振る「ノー」(「さようなら」も同様)、下腹部をポンポンと叩く「トイレ」(排便・排尿共に)」

・理解力の向上では、教員が遊んでいる時と、指導する時の表情を変える(使い分ける)ことによって、うける恭介君の表情や行動も変わります。真剣な表情で冷静に話しかけることによって恭介君も新権威受け入れることができます。同じ指示でも、教員がにこやかに話してしまうと指示が通りません。

- ①身振り・・・友達、介助者、教員に見て欲しい時、来て欲しい時、声(アーアー)や手をさしだして人を呼ぶ。
- ②カード・・・トイレは自発的には出せないが、介助者がカードを見せるとトイレだと言うことは理解している。
- ③アイコンタクト・・・席に着かない時、広告チラシを散らかした時など、じっとみつめていると、こちらの気持ちを理解して行動をあらためる。
- ④スキンシップ・・・がんばったときなど、頭をなでてほしがる。(自分でやってみせて、要求する)

・写真カードでの場所や他所の理解。意思表示も場合によっては自ら使用することが出来る。

・服や靴など具体物をもってきて要求表現することが見られる。

・他者がやりと遊びをしていると積極的に加わりようとする。

・他者に物をあげようとするそぶりをみせて、他者とのやりとりを楽しもうとする場面がみられる。

〈目標〉自分のやりたいことや嫌なことをつたえることができる。

〈方法〉身振りのサイン等でやりたいことや終了を伝える。

・伝わったことが分かる経験を繰り返し、人に伝えること伝えることの喜び、必要性を感じさせていく。

〈課題〉サインの示し方の難しさや数の少なさ

○大人の話している内容の多くを理解することが出来る。

○快の気持ちを笑顔や「あー」の発声、動作(手はたき、両手を振る)などで表現する。

○自分の意に沿わない時は、状態を反らせたり、たたいたり、ひっかいたりする。

○要求があると、移動しようしたり、教師に向かって発声したり、視線を合わせたりする。教師の腕を自分の方へ引きよせようとすることもある。

○両手を合わせて(叩いて)、YES(お願いします、ください。)の気持ちを伝えることができる。

○両手を振ったり(バイバイ)、首を横に振ったりして、NOの気持ちを伝える練習中である。※教師の腕を叩いて呼び、やりたいものに向いたり手をそちらに伸ばしたりしながらお願いサイン(手を合わせる)ができるようになってきた。

○髪の毛をひっぱたり、頬をつかんだり、たたいたり、車いすを倒したりすることがあり、危険である。

○注目要求が強く、特に職員に対して水を吐き出したり車いすを大きく揺すったりなどの奇異な行動を取ることが多い。

大好きな人を見分け、向かっていき、スキンシップを要求ができる。サインクレーンで要求を伝えることが出来るので、次の段階として、要求を細かく伝えるよう2語分のサインを学習している。

・友達と同じ場にいることができ、自分から友達に寄っていき、働きかける。

・活動には挙手をしてやりたい意欲を表し、積極的に取り組む。

・学校内の行きたい場所は、自分で写真カードを持って来て市hめす事ができる。

・トイレのサインがほぼ定着している。

・日常的によく言葉がけされることに関しては理解し、動くことができる。

・職員から頼まれた仕事は一生懸命やろうとする。

対人的な愛着関係の育ちは確かで、慣れない場所でも親しい担任を支えにして、ものや新しい人の関わりを広げることができる。三項関係が成立し、自分の要求を相手の手をとることやものを持っていくことでしっかり伝えられる。発声や身振り(手を振る、拍手など)を伴い、はっきり伝えられる。簡単なことばかりが理解でき、状況に応じた行動が取れる。また、何らかの身振りや発声で応える。

(到達目標)・・・おもちゃなどのいろいろなものの扱いを経験することを通して、共感を高めながら、要求を伝えること、持続して取り組めること、短い見通しをもつこと、模倣できること、見比べて定位したり、選択したりすること、流れの中で言葉の理解が出来るようになること。

(方法)・・・言語指導室でのいろいろなおもちゃ、教材を通してのやりとり

(課題)・・・好きな活動を広げ、達成感を蓄積しつつ、選択することで意思を伝えられるようにしていく。

到達目標:サインやカードで自分の意志を伝えることができる。

指導の手立て

・褒められたり叱られたりは即座に理解し、「あっ」「あっ」の発声で周囲の注意をひくことができる。サインやカードで気持ちを伝えられた時は、大木に称賛し、伝えることの喜びをあげ合わせるようにしている。「トイレに行きます」「下さい」「自転車で遊ぼう」「遊戯室で遊ぼう」「もっとやってください。」・・・などのサインをその場に応じて使えるようになっている。

## 資料2 個別の指導計画の通り

### ①愛着関係

・人との関わりが大好きな為、自分の思いが選考してトラブルになるケースが多い。本人は必死にしゃべりかけても、相手がそれに応じてくれないことも多く、イライラして相手に攻撃的になることがある。(大好き、気になる友達に対して)

・大人と一緒にいる場面では、クラスの若い女性一人を心の支えにしていたが、3年生になると、活動する授業場面に応じて、心の支えとなる大人を探しては、新しく見つけ、うまく活動できるようになってきた。対人関係についても、着実に広がってきている。

### ②自己表現

自分の気持ちは「～したい」(期待感)でジェスチャーやマカトンサインで表現している。3年になり、言葉の模倣も上手になり、はっきりと聞き取りやすい言葉も増えてきた。相手が理解してくれることがわかると、次は「自分の思い通りになりそうな教師」を見つけて、手を握って離せないこともある。

### ③意思表示方法

入学時は発声やジェスチャーがほとんどだったが、現在ではジェスチャーもより具体的になり、マカトンサイン、発声(家族、友達の名前、先生の名前、あいさつなどを自分から喋れるようになってきている。本人も自信がついてきたように感じる。

### ④理解力

場の把握は、ある意味でとても早いのだがそれが思い込みや決めつけにつながりやすい。本人が勘違いしているような雰囲気の際は、特にゆっくりと話して、絵カードを示したりして理解できやすいように配慮している。

①到達目標・・・朝の会であいさつや返事をする時に声が出る様にする。

①指導方法・・・声を出させる為に、いつも口にくわえているタオルをはずす。

②到達目標・・・居住地交流で10人以上の生徒とふれあい、関わる事が出来る。

②指導方法・・・できるだけたくさん生徒に関われる様に生徒のそばで色々な生徒にはなしかけ、色々な生徒に目を向けさせる。

③到達目標・・・「ちょうだい」という場合は、自分から手を叩いたりして要求を伝える事が出来る。

③指導方法・・・物を見せて、どれがほしいのを言わせる。

③課題・・・どれがほしいのかがわかりにくい時がある。

言葉の理解は1日の流れや毎日の状況と言葉から理解し、行うことが多い。自分の気持ちはお願いのサインやトイレのサインやおじぎをするあいつのサイン等、生活に必要なサインを行っている。



- ・担当者が他の児童とかかわっていると、やきもちをやき、はぐしてくる。
  - ・好きな女子にははぐしに行く。
- おりがみが欲しい時は「一枚ちょうだい」のサインを出す。
- ・自分を見て欲しい時は顔(目)をのぞき込む。
  - ・嬉しい時は手を挙げ、声を出して喜ぶ。
  - ・自分のいやなことを話していると思った時は、泣き顔になる。

〈目標〉肩をトントンと叩いて、教員や友達を呼ぶことができる。  
 〈指導方法〉「肩トントンだよ」「せんせいは？」などと声をかけると、相手の肩を叩いて呼ぶことができた。  
 〈課題〉自分から、相手の肩を叩いて呼べるようになること。

自分の思いを表現することを目標に、丁寧に言葉がけを行い、その時の表情やサインを教職員が読み取るようにしている。喜怒哀楽の表情が豊かで、問いかけに対して表情や身振りで応えている。

全般的に「人」が好きであるが、やはり順位はある。一番好きなのは、お母さん、家族。学校では担任や自立活動担当などの深く関わりのある人に愛情を示してくれる(炊き付けや自分から寄っていく)、アイコンタクトは良好。指差し(手差し)と発声で要求を伝える。表情で嫌な気持ちを伝えられる。

(目標)スケジュールカードを見て次にすることがわかり、目的意識をもって行動できる。  
 今すること、次にすることの2枚のカードを提示し、すんだらはがして終了ボックスへ「おしまい」するやり方で取り組んだ。他にしたいことがあって気持ちを切り替えにくく、問題行動をおこし起こしがちだった場面(手を洗う、トイレに行くなどの前)スケジュールを確認するようになってからは問題行動は減っている。「おしまいしてきて」と教師がスケジュールの方を指したり、一つの活動がすんだら自らスケジュールのところへ行っておしまいしたいすることもできるようになってきた。H21. 3月より休み時間(本児の好きな時間)乗義にした5~6枚のカードのまとまりで、提示する形式に変更しているが、スムーズに取り組むことが出来ている。

1)健康の保持にも記したが、NOを言えるサインを用意する必要があるのではと検討中である。自分の意思を何とかして伝えようとし、問題行動(他傷、ツバはき、ひっくり返るなど)につながっているのではないかとと思われる。教師(特にこの人と決めた人)の表情をよく伺っている。

前担任や優しい言葉をかけている人が近くにいと、自ら気付き、より近づいてあいさつするように笑い、かわいいと言われます。大便がしたい時には、片手がズボンの後ろに行くことがあり、すぐにトイレでできたことも数回ありました。排尿の前後に笑いがあったことも多かったです。

- ・10枚くらいの写真カードの束をこれから行く所(給食室、トイレ)を知ることや、本児がのどの乾き、空腹を感じていることを訴える際に使っています。(枚数が多くなりすぎないように気を付けています)
- ・何かして欲しいことがある時は、手を持って誘導してくれますし、一緒にいる時間が長くなるにつれ、本児の思いを理解できずようになりますが、確認意味や担任外の教師との意志の伝達には有効です。

○「おやようございます」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさまでした」等いつも行うあいさつは「ババババ」と言え  
 ・職員も「ババババ」という言葉を使って一緒に挨拶をする。  
 (課題)本人は「ババババ」と話せることで喜ぶこともあるが、思っていることを伝えられる手段にはなっていない。  
 ○給食のおかわりでカードで伝えることができる。  
 ・ごはんを少なめに盛り付け食べ終わって、おかわりをしたい時はおかわりカードを職員に手渡すことができる。  
 (課題)おかわりカードの他にも、カードが使えるようにしたい。

担任、クラスメイト、授業で関わりの濃い先生、友達と、集団の中で一緒にいる程度の関係の相手とははっきり区別しており、興味を持って手をさしのべたり、表情豊かになったり追視したりなどの自発的アプローチは前者にしか行われぬ。慣れ親しんだメンバーがいると分かっている教室へは戻りたがる。何人かの友達の癖を覚えており、さけたり、抱き付いたり、態度がはっきりしている。大人、子どもの区別もあり、いつも親切にしてくれる女子3名には親愛の情の笑みを向ける。一方いても側にいる担任には甘えもありわがままな態度もとる。相手を見て拒む、催促する(立ちたい時に立たせてくれる人に向かっててを伸ばす)歩み寄る追視するなど人との関わりを構築している。

・国、算(ことば、かず)や日常の遊びの中で行っています。人との関わりを大切にやり取りを大切に考えています。写真などやカードも使っていますが、まだ、理解が難しいです。

・激しく反応してしまう時は、こちらがあまり興奮させないよう静かな対応にしています。

・愛着関係

よく遊んでくれる大人や友達には自分から積極的に関わっていく。

・サイン

トイレがしたい時にサインを出すことはほぼできるようになってきている(別紙2参照)

・了解行動

ホールに遊びに行きたい時に、その近くまで来ると、声を出したり行く前に担当者の方を振り返ったりすることがある。

関心がある物・事に対しては、視線を向けたり、手を伸ばしたりということが出来ます。関心の低い事・物に対しても自分の行動を調節できるようになると表出の手団に幅が出てくると思います。

・人との愛着関係では、好きな友達、先生に抱き付きに行ったり、手をつなぎに行く。

・自己表現意欲は強く、人を呼ぶ時、ほしい時等に声を出したり身振りで表現する。また、したくない時、嫌な時は顔をふせたり体を反らすことで表現する。

写真カードや絵カードを使ったコミュニケーション～学校生活全般で活用

指導課題

・日常生活に関わる基本的なコミュニケーションサインを理解する

・欲しい物や好きな物を写真で選択できる

指導方法

・言葉と一緒にマカトンサインで指示を出し、また本児からの要求をサインで確認してから応じるようにしてサインを理解させていく。

・お気に入りのおもちゃの写真をロッカーに貼り、おもちゃが欲しい時に写真を教師に手渡すように促す。

中学部の頃は、外的刺激を自分で整理できずイライラする場面もありましたが、高等部ではコミュニケーションの点で苦労した思いはありません。本人は人が好きで、こちらの思いをかなり汲み取る能力が高かったように思います。ただし「この人」と決めると、その教員以外の指示を聞かない傾向があるので新しい教員等には必ずその旨を伝えました。

発声(ア、ママなど)身振り、指差し、笑顔等で関わろうとする。好きな人には積極的に関わろうとし、抱きついたり、たく(力の加減ができず)などする…目標3)環境の把握②と同じ 指導内容・方法 本人からの発信(発声、身振りなど)を言語化して確認しやりとりをする

(実態:発語がいくつかある。指差しや物に手を伸ばしたり、手を振ったり顔をそむけたりすることで意思や気持ちを伝えようとする。

(1)楽しい活動をたくさんする。気持ちを表現する。(楽しい。やってみたい。)

(2)からだの学習を通して教員とゆったりとしたやりとりをする。

(3)揺さぶり遊びが好きで何回か遊ぶと自分から教員に近づきやりたいと伝える。

※指差しがよく出てきているので、その時アピールをこちらが受け止めていることを すぐに意思表示し、何を示しているか、要求しているかを読み取って語り返すようにしている

友達が好きで、よく寄っていく。指差しや発声などで、自分の意思を伝えようと努力する

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について

### 3. 問題行動への対応と課題

大きな声を出して、なかなか収まらないことがある。その時には、首、あごに強い緊張が感じられる。首、あごの強い緊張を動作法によりゆるめ、口を閉じるように援助し、鼻呼吸を促すと穏やかになっていく。

- ・ときおり、指なめがみられる。
- ・介助者へのこだわりがあり、場所や場面に応じて自分で決めた人と違うと、拒否することがある。

- ・奇声・・・特に朝・午後・通常学級の中で多い。序徐々に高まり、「オウエ」となるまで止まらない。→状況をかえて、気をかえる。
- ・器物破損・・・おもちゃ類・本・教具(えんぴつ)などを机上からおとす、なげる。積み木をくずす。
- ・丸呑み・・・次々にパンを口に入れる。
- ・指なめ・・・かんだりもする。

- 自傷・・・対応:こまめに声をかける。気をそらせる。課題:一度気になるとずっとさわってしまう。絆創膏などをはってもすぐにはがしてしまう。
- 他傷・・・対応:粘り強く声をかける。気をそらせる。課題:友達が驚いて(痛くて)騒ぐと余計おもしろがって繰り返してしまう。
- 過食・丸のみ・・・対応:決められた分しか食べられないようにする。どうしても欲しい時は、目の前のものを食べてからおかわりをさせる。パンやおかずは小さく切っておく。課題:不安的なときや、どうしてもほしいものがある時は、友達の給食について手を出してしまうことがある。ちいさくきったパンを、いくつもわしづかみして丸のみしてしまう。また、まだ飲み込んでいないのに、さらにパンをつかんで口におしこんでしまう。
- 指・物なめ・・・対応:粘り強く声をかける。気をそらせる。タオルなどををかませる。課題:悪化すると、片手を丸ごと口に入れ、のどの奥に指をつっこんで吐きそうになる。友達から嫌がられる。

- ①こだわり・・・いつもの流れや物のおき場所が違うと同じようにしたがる
- ②奇声・・・気をひきたくて「キー」という声を頻繁に出すことがある
- ③嘔吐・・・水分を誤飲して、ごくまれにある
- ④丸呑み・・・「よくかんで」と言葉かけをしないと丸のみをすることが多い
- ⑤指・物なめ・・・常によだれが首に巻いているタオルや指を口に入れ、注意されると一瞬出すが、また入れてしまうことが多い。

- ・他傷:他人をしつこくたたく・・・その都度話を聞かせています。
- ・こだわり:ビー玉を皿などに乗せて回す・・・休憩時間など、時間決めてさせています。
- ・奇声:時々大声を出す・・・時と場に応じて指導しています。
- ・興奮をおさえる。
- ・笑う時、静かにする時等メリハリを教師が行い、リズムを作る。

- ・他傷～ちょっとした注意で他の子を手でぎゅっとつかむようなことがあるので、常に言葉かけをしている。
- ・器物破損～出来上がった作品を壊す事は大好きで、大事にするように話をしている。また、水をいたずらするなどいろいろな場面で注意が必要で言葉掛けをしているが気持ちが高揚すると押さえる事は難しいことが多い。
- ・過食～太りすぎのため家庭と協力して食べ過ぎに注意している。
- ・脱衣～うら、おもてなど言葉かけなしでは難しい事がまだある。

- 自傷:頭を打ち付ける時、膝を入れしっかり抱きしめ、「わかったよ」と言うと収まる。
- 指なめ:今のところ難しい。他の事への興味を誘う程度

器物破損: 大きい声口調で指導すると、制服のボタンやズボンのファスナーを力任せに扱って壊す事が何度かありました。緊張を緩めるように伝え、すぐに力を抜く事ができ、壊した後も優しく扱うように伝え、学校で何か壊すという事はなくなりました。

偏食・嘔吐: 苦手なメニューや刺激の強い食べ物が出た時は、食べる前から「おえっ」と言って嘔吐しそうな様子が見られます。その際は、無理に食べるように促さず、時間をかけて食事をさせたり、食べた後にはお楽しみ(強化子)が待っていると伝えながら食事をすると、いつの間にか間食していることが多々ありました。

物なめ: 相手の反応を見るためにわざとしているようで、相手を見ながら物なめをしようとします。しかし、気がつかない振りや、その行為に対してあえて触れずに接していると物をなめようとする振りを止めるようになります。

異尿: 慣れない場所や普段かかわりの少ない人と接する時、わざと尿をすることがあります。相手がどんな反応をするかを試しての行動という事が一番の要因と考えられますが、その場で強い口調で指導すると繰り返す事は少なくなります。

つばつけ: ふざけて相手につがをつけることや、唾を吐く事がありますが、ごく稀です。

・他傷は叱られた時や、相手に「痛い」など反応した時、多く見られます。担当の職員が淡々と対応していれば続けません。

・指なめは特に、口内炎などが出来ている時と食後にひどくなります。眠るまでの間、ずっと手の爪と、足の爪をかみ続けているので手も足も爪が有りません。

〈過食・丸のみについて〉

・食欲や食べ物に対する執着心が強く、

出された物は残さず食べる。学校では給食時、①おかわりはなし②ゆっくり時間をかけて食べる等約束している。

②についての対応は

・早く食べられないよう箸を使うようにする。

・パンは小さくちぎり教師が持っていて、一口食べ終わったら次を渡す。(催促されたら)

・数をかぞえ、良く噛ませる。Etc

VOCAなどを利用して、返事をする等の場面で本人の意志で操作をさせる。

他傷: 周りの人たちと関わる時、力の入れ方の調整が難しいため、相手にとって強く掴んでしまう事がある。また、注目を集めるため、悪い事と意識しながら髪を引っばる等を行ってしまう。

→適切なかかわり方として、顔を見る・やさしくなでる等を伝えているが、できる場合と気持ちが高ぶってできない場合があることへの対応が課題と考えている。

こだわり・パニック

→気持ちが落ち着くまで待つ。全く違う話題で話しかける。次の活動に関連した物(写真や具体物)を提示する。

→自分の要求をかなえて欲しい時、自分の気持ちが相手に伝わらない時に起こりやすいので、物事の順序や気持ちの表現方法を理解し、身に付ける事。

・自傷・・・自分の顔を叩くなど一主陽にならない時など。なぜ、それがいけないのか、今どうしたらいいのかを丁寧に言葉で伝えるようにしている。

・他傷・・・相手を叩く、ひっかく、両者の間に入り、お互いの気持ちを分かるように伝える→その積み重ねでお互いに(特に周囲が本児に対して)理解し合って生活している。

・奇声(大声を出す)・・・たいがい何らの意味があつてやっている。そのため、「問題行動」とは捉えていない(もちろん場合にもよるが・・・)できる限り、本人の要求や言いたい事を察知し、言葉にするようにしている。例えば・・・「〇〇くん!」「たのしいよ!」「びっくりした!!」など・・・)それによって、自分の気持ちが理解されているという安心感、分かってくれる人が側にいるという安心感を得られるように努めてきた。

・多動: 活動中は本人の目につくような場所に本人の好きな物(気になる物)を置かないようにしている。

・指・物なめ: 指なめによって、唾液が流れ出る場合があるので、リストバンドをしたり、首にバンダナを巻いたりしている。

偏食: (例)カレーライスが苦手であったが、給食時の声掛け、少しずつ食べさせる等により食べられるようになってきた。最初は、ごはんとカレーを別に盛り交互に食べる事から始め、現在はご飯にかけて一緒に食べている。

指なめ: バンダナ等と手にまいたりしたこともあったが、現在も続けている。指示方法等について、模索中である。

- ・耳や髪のに触れて、安定を求める事がある。
- ・感情の成長面がみられ、短時間の泣き笑いがみられることがある。

- ・基本的に問題行動への対応は情緒の安定をはかること、注意をそらることをしている。注意・指導をし、一時は反省してもすぐに問題行動をくりかえるためねばり強く指導する必要がある。問題行動とされる行為に関しては、注意の有無にかかわらずさらにエスカレートする場合がある。
- ・危険な物(ハサミなどの鋭利な物)土・小石・容易に手に持つ事が出来る物は、投げる事もある。基本的にはかまってもほしいサインであるが、非常に危険である。「ものをなげる」という行為は「悪いこと」、「注意される事」「かまってもらえる」と理解していると思われる。

自傷: その前段階で、誤解をさせないコミュニケーションの工夫や本人の意思を尊重していくことで、未然に防ぐ  
 他傷: 好意を”たく”動作で表したり、力が強いためちょっとした動作が周囲にとって危険な場合があるので環境を整える事で未然に防ぐ  
 多動: 何かに集中させることで、落ち着いた行動を目指した。  
 脱衣、脱衣: 気を引くためやることが多いので、本人の気持ちを別の物に移す必要があった。指導する側の足並みをそろえる事が重要と思われる。

他傷: 他の利用者及び職員に対して手を出したり、ひっかいたり、つかんだりすることがあります。軽くではあるが、叩く、噛むことがあります。

- ・指、物なめ、こだわり  
 厚紙でできたおもちゃのパッケージなどに最初から行うわけではないが、おもちゃに興味があり、自分から近づいて行った先に紙有ると気づいて、かんで口の中に入れてこむことがある。食べる(飲み込む)事はなく、最初、なめる事からはじまり、やわらかくなったものを口の中に入れていく。口の中に入れて物を教員が出したり、目の前から紙をなくしても執着は小さく、不安手になつたりすることはない。  
 おもちゃやキーボード、テレビ等の格子状の部分、加湿器の風の出るところに最初は手で触れ、楽しんでいるが、顔を近づけていき、なめたり、口にふくむことも見られる。その際、よだれも出ている。  
 常に興味有る物のところへ自分から向かっていき、関わろうとする。物から遠ざけても執着して自分から、繰り返し近づいていき関わろうとする。興味有る物として、他にペットボトル、ビニール類、水、水の入ったバケツ他があり側にある物には、手を伸ばし、遠くにあっても移動して近づいていく。(車イスに乗っていても体を揺らす事で前進していく事も)執着は大きい方ではないので、物または児童の方を遠ざける、目の前から見えなくする、働きかけて他の物事に気持ちを向けさせるようにしている。指をくわえる事は、たまに見られる。
- ・自傷  
 問題行動までとは言えないが、右手の親指で右まぶたの上に押し当てるといった、自己刺激といった様子がたまに見られる事がある。
- ・その他  
 常道行動・・・手をはなたかせる  
 基本的には集中力に欠ける

他傷: 人と関わりたいという気持ちから、強い関わり方(髪のを引っ張る。噛む)をしてしまう。  
 <対応>・友達への一方的な関わりに対して、声掛けやカードでいけないことを理解していく。  
 ・友達への関わり方とし、「肩をトントン」の言葉を理解し行動に移す。  
 ・見本を見て適切な関わり方を学んでいく。  
 ・自分から手を離れた時は、褒める事で適切な関わり方を学んでいく。  
 指・物なめ: 自由な時間があると、指や物なめが見られる。  
 <対応>・声掛けで注意を促す。  
 ・他に気持ちを向けられる物や声掛けをしていく。  
 <課題>・あまり過激に声掛けをして、いけないという声掛けが強くないよう注意している。  
 ・登校時スクールバスで長時間乗っている中で、この行動が見られ対応に模索している。

イライラする時、嫌な時、気を引きたい時等爪で相手の手首等をひっかく



<多動>注意集中の困難、特に注意の転導しやすさ(聴覚は特に過敏)であることが大きく関与していると思われた為

1. 1対1で関われる学習場面において以下の取り組みをしました。

①刺激の少ない環境設定をする。Ex. 個室又は壁際など静かですっきりした場で学習する。

②対象に注意を持続させる学習課題に取り組む。

Ex. 1)「穴や容器に物を入れる」活動が得意だったので、それを発展させ「一手間かけて入れる」課題をに取り組みました。例えば、コップ重ねはひっくりかえし納めていく、袋から取り出して納めていく等。

Ex.2)一つに注意を向けると他の事は全てお留守になるので、一つに注目しつつ、もう一つにも意識を向ける力を育てよう。「二つのものを見比べて処理する」課題に取り組みました。

2. 学習時に身体が動きすぎないようにイスぴったりサイズにしました。ex. 1)袖付きのイスのそでの内側にクッションを入れ、身体をソフトに固定するようにしました。

<こだわり>見通しがもてない、視点の切り替えが難しい、取り上げられるのではという不安などが原因かなと感じました。そこで、対処療法ではなく、認知面の成長を促す事で乗り越えられればと考え以下のようにしました。

1. 無理矢理切り替えさせる(とりあげる)のではなく、次の場面が(これから始まる事が)おもしろそうだと気付かせるようにする。(ex. 課題の提示の工夫、歌で始まりの合図)

2. 個別学習の時間に「頭の中に同時に二つの事を意識する」「視点を変える(こっちじゃなくて、こっちかな?)」ことを狙った学習課題に取り組みました。ex. 型はめ:二つを見比べはめる。コップかさね:ひっくり返して納める。

3ヶ月程でスムーズになすようになり、そのころから行動面でも落ち着きが見られ、場面の見通しがつくようになりこだわり行動が消えてきました。

- ・少人数のグループ活動を通して、対人関係を育成し、情緒の安定を図る。
- ・過度で不要な刺激を避けて、落ち着いた環境を用意する。
- ・場面に応じた適切なことばかけや、環境設定を行う。
- ・コミュニケーションの意欲を伸ばしつつ、適切なスキルを教える。
- ・適応上大きな問題となる場面ではガマンさせる。
- ・本児のわかりやすい適切な課題を用意し、活動の流れをわかりやすく提示する。

他傷:友達をたたく、ける、髪を引っ張る、噛む等、その都度×のサインを出し、してはいけないことだと繰り返している。

指なめ:自分の指を吸っている。

奇声:興奮すると大きな声で笑い出し、なかなか止まらない。

指・物なめ:手持ちぶさたになると指をなめることが多く、物をもって口に運んでなめることが多い。

1. 偏食:
- ・汁ものを好む。
- 対応・・・汁を多めに入れてもらう。牛乳を必ず飲ませる。
- 課題・・・他の固形物も食べさせる。
2. 嘔吐:食べ物を見たり、においを嗅いだりすると嘔吐になる傾向がある
- 対応・・・お茶を飲ませる。しななく、おちつくまで待つ。
3. 指なめ:暇にしていると指をなめたり、爪を噛んだりする。
- 対応・・・ハンドタオルを使う。マンツーマンでついて何か学習や遊びをさせる。

- ・嫌なことがあると自分の手を噛んだり、頭を壁に打ち付けたりする。
- ・物を投げたり、机を倒したりする。不意に友達を叩いたり、ひっかいたりする。時に髪を引っ張ったり、かみついたりする。
- ・絵本を破いたり、おもちゃを壊したりする。
- ・つめが気になってかむ。そのためよだれで衣服がぬれてしまう。
- ・物を口の中に入れる。

指なめ、物なめ・・・他に興味を持ってゆくことでやめさせる。

軽い程度の 他傷

対人関係の欄に前述の、過度のスキンシップを求め、服や髪の毛をきつく掴んでしまう行動が、できれば解消したい課題である。本人の体格も大人に近づき、握力も相当ついてきているので、介助者や保護者にとっても年々切実な課題となってきている。そのため、髪をぎゅっとつかむ行動があった場合、

①手をほだき、目の前に×サインを見せて、「これはいけない行動だ」と伝える。

②「なでなでだよ」等と言いながら、手のひらを開いて撫でさせるようにする。

③髪を掴まずになでることができたら、拍手してほめる。

という方法で解消を図った。また、

①「痛い」ということが伝わるよう、表情や声に出して痛いそぶりをする。という方法をとっても、「自分はいけないことをした」という表情になり、自分から頭をなでようとするところがある。しかし、こうした手段で解決しようとしてもその場限りで効果がなくなることがほとんどで、時間をおくとまた同じ行動をとってしまうことが多い。

気になる問題行動はありませんでした。

奇声…1学期後半から2学期中頃まで、自分の思いが通らない時に大きな声を出すことが多かった。本児の気持ちも落ち着くまで待った。落ち着くと次の行動に移れることが多くなった。最近は言葉での理解力が高まってきていることもあり、ほとんど大きな声をだすことはなくなってきている。

指なめ…指を口の中に入れてる時があり、その都度注意するとやめている。

物なめ…3学期になり上着のファスナーをよく口に入れることがある。その都度注意するが、なかなか改善されない。

・自傷→特に冬期になると、肌が弱いために、鼻やその周辺がかゆくなるようである。そのため、指でいじっているうちに皮がむけて出血してしまう。それがかさぶたになると気になり、ひっかいてしまい、また出血のパターンを繰り返してしまい傷が広がってしまう。治るまでに4～5ヶ月かかった。自分の体を噛む等の激しい自傷はない。

・他傷→特に、初対面の人に対して、服・髪・メガネ等を引っ張る、握手したかと思うとそのまま、引っかく、かみつく等をする。(2年間担任して私にはほとんどすることはなくなった)。いずれも、相手が大げかをするほどの物ではないが、引っ張る力は身体のわりに強い。

・多動→とにかく動き回っている多動道や少し意味合いがちがう。独歩可能であるが、歩行は不安定。そのわりには教室内をフワフワと歩き回る。視界に入る物で、興味がある物があると、そこに行き、ひっくり返す等。しかし、バス、電車が好きで見える場所へ行ったら、多動にはならず喜んで見ている。

・奇声→常に声をあげているのではなく、嬉しい時や、易興奮性の時に、声を出す。大好きなバス等を見た時、みんなと一緒に出かけるのに集合した時など。

・丸のみ→歯のかみ合わせが悪いため、食物はかみにくい。給食の時は一口の大きさ、きざんで食事。ただパン等をそのまま手渡してしまうと、どんどのどでつまらせる。

・指なめ→なかなか、やめられないのが現状である。有効な対応も今のところはない。

◎どの行動も軽度です(特に困っているということはありません)

・こだわり…水やビニール袋、ビニール製品が好き。(好きに触らせるとバケツをひっくり返したり、破ったりしてしまうので、そうならないように気をつけます。学習などでさわっても破る前に止めて、必要以外はさわらないようにしています。)

・指、物なめ…暇な時に手を口に入れてしまうので、出来るだけ暇を作らない。また、話しかけたりして気をそらせています。

・好きな物(写真、本、マンガ、ビデオ、TV)を見つけると、すぐに立ち上がってその方向へ行く。

・ビニールの光沢、細かい模様(フリース生地等の洋服、ポケットに手を入れて、その動きで出来る模様)じっと見ている。

奇声:タイムアウトを行う。教師が表情を変えずに、指導する。

異食:危ない物は、手のとどかないところに置く。(場の設定)

丸のみ:食事の時は、食べやすい大きさに刻む。

・手持ちぶさたな時、口元に指を入れることがある。また、遊んでいるおもちゃを口に入れたりする。その度、言葉がけと手を軽く触れることで口に入れないように伝えている。  
・また、遊んで待ってられる物を渡して、待つようにしている。  
・指なめに関しては、要求が満たされない時にも、右手の指を口元に持って行き、少しの間軽く自分で噛むことがある。(自傷ではない)

他傷:本人は他傷という自覚は全くない。興奮して気持ちが高ぶり、「嬉しくなってどうしようもない」という雰囲気や教員の手を握ったりする。その握力がかなり強く、結果的に爪のあとがついてしまったりする。骨折注意の生徒や、チューブを留置している生徒については距離をとらざるを得ない部分もある。ただ、体力もあり、ダイナミックなスキンシップを必要としている年代でもある。同じように丈夫な身体を持った生徒との物理的接触を含んだコミュニケーションをとり機会を確保し、教員が近くで安全に配慮しつつ「友達とふれ合う」時間を大切にしている。  
「強く握らないで」「手を放して」などの言葉がけはするが、それが気持ちのコントロールに結びつくことは難しい。根気強く指導し、年齢的な成熟による感情の安定が待たれる。

多動:移動の時に寄り道をしたり、フラフラする傾向は未だにあるが、活動時間に離席をしたり、教室内でフラフラしてしまう事はほとんどなくなり、集中して着席出来る様になってきている。  
異食:というよりも、食欲が止まらず、家で留守番している時に生肉を食べてしまう事が家庭の情報であった。食べ物以外の物ではないので、異食とは表現しないのでしょうか?食べ物以外の紙や教室内で食べてしまう事はなかった。  
過食:給食前にも、調理実習等でたっぷり食した後、給食時も自分の分を平らげ、更におかわりをして食べる。(食べてしまう)「おかわりが欲しい人」という声掛けで、どんな状況の時も必ず手を挙げて食べようとする。(食べられる)。ただ、その場に食材がなくなってしまうと、特におかわりが無い事でパニックを起こしたりすることはなく、すぐに諦める事はできる。  
物なめ:・1つは親愛が深い相手に髪の毛や、服をなめて、コミュニケーション(遊んで欲しい)というサイン代わりに近づいてくる。  
・心理的にどんな状況の時かが不明ですが、時々、上履きの底、遊具等、物がまわらず、なめている事がある、特に不安な状況とか、パニックの時とか、その様な様子は見られず「やめなさい」と声かけすれば、すぐにやめられる。何か、自分に振り向いてもらいたい時か、にやにやしてやっている事が多いようである。

相手をしてくれる人を求め、その人に近づいたり、逃げたり、追いかけるといつまでも逃げ回る。普段でも、あちこちと動き回っている。  
気分が悪い時、不満な時など、声を上げる。  
食事は、あればあるだけ食べようとする。適量と思われる量を配膳している。また、一口が大きく、あまりかまないで食べようとする。

奇声・・・刺激で笑い声がでる。気持ちが高ぶると大きな声で話す。→肯定的に受け入れている。  
嘔吐・・・朝の登校時や食べ過ぎた後に戻しやすい。生活のリズムが崩れ、体調が悪くなると、もどしやすい。何か食べていなくても、少量の胃液を戻す事がある。えづきも多い。→生活のリズムを戻す所から、朝ご飯を食べずに、学校でプリン等をたべることがある。  
丸呑み・・・戻した物を見ると、そのままの形の食べ物が出てきた事があった。良く噛まずに、そのまま飲み込んでいるようである。→噛むように促し、一口量を調整する。できる時はきざみ食をたべる。  
指なめ・・・口内炎が出来た時などに、よく口の中を触っている。唇にタオルなどをつける感触も好き。

学校現場において、自傷、多動、奇声、脱衣などの行動は見られたが「問題行動」とまでに発展してのべられるような状況には至らなかった。

#### 嘔吐

・慣れない場所に行く、意に沿わない場所に行く、むやみに急がせる等を本児に課した時に多い。  
徘徊(意のままに出歩く)  
・本児の注意を引いた物(人)の方へ歩いていく。静止の言葉掛けには応じない事が多い。  
・教師の気を引きたい行動として、目的方面とは別の方向へ歩いて行く。静止の言葉掛けに応じない事が多いが、立ち止まる事もある。

(自傷というほどではないが)けがをしようと、どうしてもその跡をほじったり、かさぶたをはがしてしまう。バンドエイドなどはがしてしまう。とにかくけがをさせないのが一番ですが、なかなか難しい。

(自傷)ごくまれに行動を制止された時、まぶた付近を強く押さえることがある。理由をできるだけわかるように伝えることで対応。

(器物破損)ビニールやテーブルの端が気になり取る。立体的な作品などつぶす。フラワーアレンジに取り組み、作品を学校玄関に飾った。先生方に喜ばれ、評価されたことにより作品の意味が少しずつ分かってきている。他の美術作品等も「自分が作った」とアピールし、ほとんど壊さなくなった。解る活動の提示と他者からの評価を心がける。

スクールバスで手持ちぶさたになる時など、気を紛らわすグッズで対応。

(丸呑み)歯触りのやわらかいものを丸呑みしがちである。形態を小さくする。声掛けをすることで対応。

上記いずれも他生徒と比較して特に気になる程ではない。

・自傷:半袖を着用する時期には、指や腕(手首付近)を傷が残るほどではないが、歯の跡が付くぐらい噛む。

[対応]・声掛けして他に興味をひきつけるよう促しました。

・偏食:給食時に好みのメニューではない時は、全く手を付けないこともありましたが、少しずつ改善しています。

[対応]・給食時、普段食べ慣れない物をじっと観察していることが、あります。そういう時に促すと一口食べられ、次第に食べられる種類が増えて来ました。

・こだわり:・ビニール、セロテープ、ガムテープ類、テープ類に固執する。

ぼうし、手袋、新しいズボン、今まで身に付けていなかった物への抵抗感が大変強い。

[対応例]今年度の9月からブラジャーを付け始めました。最初、嫌がりましたが、友達がつけている状況を着替えの部屋で見せ、言葉掛けをすることで納得して付けられる様になりました。

[課題]生理が始まり、ナプキンの使用を拒否している状況。他に気持ちを向け、短い時間でもつけるよう対応していますが、今後の大きな課題と捉えています。

・指、物なめ:時々指なめやビニールをなめていることがある。

[対応]指なめは、毎日の様にある。ビニールは、飲み込むと危険なのでそれをなめている時は、持たせない様にしました。

物なめ・・・頻繁に見られるが、危険のある場合はすぐに取り上げるが、そうで無い場合は、「食べられませんよ」というとやめるので、特に問題は感じていない。口に入るのは、好奇心(感触をたしかめたい)のときと、気を引きたいときには、大人の方を見ながら、目が合うとにっこり笑って口へ持って行く。そういうときも「食べられませんよ」と言ってやめさせ、可能なら相手をする。

他傷、人をたたく・・・①何かやるように言われた時に(嫌だ)という気持ちが伴うと周囲の人をたたく

②人を呼びたい時(出会ったときに、相手が気付いていないと背後からたたく)

③身体接触(抱き合う、手をつなぐ、首に相手の腕をかける)を求めるが相手に応じてもらえない時以上のような時になるので、

①については、自分の気持ちを少しでも伝えられるように怒っている、休みたい、うれしい、眠いの絵カードを用意して、使用を促した。

②③については、挨拶の仕方、やさしく肩をたたく、一声を出して(発声を促す様にしている)「おはよう」などモデル提示

・自傷:気に入らないことがあると、壁や机などに後頭部や顔をぶつける。対応としては、ヘッドギアをかぶらせたり、机を移動したり、本人を安全な場所へ移動させて気持ちが落ち着くまで待つか、好きな物を提示して気持ちをそらせる。

・パニックまでは行かないが、土曜日の訓練会の教室など決まった日を覚えているのかメンバーを見て思い出すのか、訓練会中泣いていることがある。(普段その教室に入ってもなんともない)

・偏食:野菜や汁物、魚が好きで、果物、おかし、デザート系のものは食べないことが多い。

- ・コンディションの把握
- ・リラクゼーション
- ・目的が持てる環境の設定
- ・許容を決める
- ・よく人の様子を見ているので、声かけ、見守り、通過等状況に応じて対応をする→強い刺激は効果はないと見る。
- ・感覚刺激に上回る快のゆれの体験(パラシュート、回転、トランポリン他)

- ・多動面では集中時間が短い。
- ・他傷では人をたたおたり、押ししたり、相手の髪の毛をひっぱたり耳をかんでくることがある。

自傷・・・家庭では爪をはいでしまうことがあった。学校では(その後タイツをはいてきたこともあり)みられない。  
 多傷・・・大人や友達をたたたり、爪をたてたりしてしまう。本児がいらだてで行う行動ではなく、かかわりたいという表れ、常に「やさしくね、こうしようね」という声かけを行い、楽しい関わり方はどのようなものなのかを知らせていく。

- ・自傷といえるかどうかだが、鼻に指を入れて鼻血を出す。かさぶたをはがす。
- ・他傷といえるかどうかだが、人をたたたり、髪の毛引っ張る。
- ・物を壊すというより、結果的に壊れてしまったというほうが正確かも。棚の上にあるものを取って、振り回したり、落としたり、これをすれば先生がこっちを向いてくれる、ということを理解し、「コラッ」とおこったりする光景を楽しんだり、遊んでくれると思っていたり、相手のなってもらえる行動の一つと考えている。
- ・脱衣についても、着せようとするので脱いでしまったその行動を取ることで、相手の反応を楽しんでいる。

自傷・・・虫さされや怪我などをした場合、ずっとさわり続けてしまい、傷が治りにくい。傷テープや包帯もすぐにとってしまう。何日かすると飽きてくるので治癒に向かう。  
 多動、こだわり、器物破損・・・好きな物に固執し、CDデッキやプロジェクターのある部屋へ行こうとする。CD等の機器は触ることで音が出たり、光つたりの反応が出るので、色々スイッチ類を触って壊してしまうことがある。中のCDやカセット等も割ってしまうことがある。ある程度触っていると、他の機会をさわりに行ったり、別の遊びに興味も移ることもある。  
 奇声・・・好きな先生や母親などに抱きつきながら奇声を出し続けることがある。原因はよくわからないが何かの拍子に始まると、とても嬉しそうに叫び続ける。しばらく離れると、落ち着いてくる。  
 偏食、異色・・・鶏の唐揚げ、ウインナー、マカロニ、マヨネーズ等、大好きなものと、牛乳、野菜など、口にしない物がある。嫌いな物は食べさせても吐き出すことがある。お茶を飲みたがるので「これを食べたからお茶」と、順番を示すか、お茶漬けにすると食べられている。異色としては、ビニールの感触が好きで、すぐ口に入れる。

- \* 一対一の個別で対応している。他に2名児童を一人担任で指導している為、どうしても問題行動の前に止めることが不可能になる場合があるそんな時には、
- ・自傷・・・袖口を噛む。噛んだら袖口を折り返して噛んだ所を見えない様にしていた。
- ・多傷・・・興奮するとテンションがあがって、まわりにいる人につかみかかったり、かみついたり、髪の毛を引っ張るといふ乱暴な行動がある。「しません」「この手はなんですか」と真剣な表情で注意をすると手をとめるようになってきた。
- ・奇声・・・「どうしたのかな?」「静かにします」などと真剣な顔つきで言葉かけをする。両手をつないで一緒に左右に体をりずむよく揺らしながら落ち着かせる。
- ・指、物なめ・・・飲み込んでしまうような大きさのものを放置しないようにしている。口に気になる物を入れて確かめるので、棒状のものやビー球のように小さい物は、特に注意をしている。

強いこだわりはないが、「作業は〇〇先生」「着替えは〇〇先生」と決め、担当者が違うと大声を上げ拒否する場面がある、事前に言って聞かせたり、顔合わせもして理解させておくと、「いつもの担当者はどうしたんだろう?」と気にしながらもスムーズに活動する場面が多く見られるようになってきました。

「他傷」髪を掴む・噛みつく・叩く・蹴るなどの行為を自分が受けた際には、その行為に対するリアクションを恭介君に見せてしまうと、面白がって続けたりエスカレートしてしまいます。このような時は、冷静に(痛そうな表情を見せたり「イタタ」などと言ったりせず)恭介君の目を見て、やめるように指示し「やってはいけない」ことを伝えます。この1年間ですいぶん他傷行為は減ってきましたが、その場での注意で理解出来ていても繰り返してしまうので、繰り返し指導することで減らせることができると考えています。

・こだわり:好きな児童には自分から寄っていく。(特に好きな子がきまっている)。広告チラシを触る(折る)音が好きで、いつも手にもちたがる」。  
・丸のみ:小さく切って、フォークでさすようにして、のどをつめないようにする。声かけをして、口を動かして「カミカミ」していくようにすすめる。  
(脱衣):全部脱ぐことはないが、Tシャツやトレーナーの前をめくり上げて、お腹を出すことはある。その都度、注意して、しないように指導している。

他傷:2. 心理的な安定参照。  
脱衣:一度厳しく叱るとその人やその場面ではやらなくなる。  
・優しい人の前ではやっても大丈夫と思うとやり続けてしまうので、機化の課題がある。  
過食:大皿で皆で食べるのではなく、自分用の皿を用意し、そこから少しずつ分け与えていくと大丈夫。他者の皿からは取ろうとしない。  
こだわり:前日にやったこと、前の授業でやったことをその場面で、またやるとする。常習化する前に厳しく叱るとすぐおさまる。  
・初めてのこだわりも突然起こるが、こちらも出始めにすぐ対応すれば長引かない。  
丸のみ:「摂食」の欄参照。

○こだわり・・・が強く、口にしたり引き裂いたりすることを好む。目に入るとこの欲求を抑えることは難しく、止められると周りの物をひっくり返したり他者への攻撃などの問題行動が見られたりする。→平時はみせない配慮をしている。授業場面で定時された場合等は、場面に応じた態度を指導する観点で言葉により指導している。このような場面では落ち着いて欲求を抑えることができるようになってき  
○他傷・・・他者への興味・関心が非常に高い。人懐こく接しようとする。しかし、特に同年齢の児童に対しての関わりが粗暴になることが多く、手や顔をひっかいたりつねったりしたい気持ちが高い。→常に1対1で支援している。他の児童生徒との距離と位置関係に留意して介助している。他の児童生徒とかかわりの場面では、本児の腕を持って開場する様にしており、状況に応じて規制している。最近は、かかわりの場面で「やさしく」等の声かけをすることでこちらをうかがいつつやさしく撫でる様に接することが出来る様になってきた。

偏食ほどではなく、食べられる事も多く、体調や気持ちが向いているか、一口食べられたきっかけで食べられるようになることも多い。

他傷・・・コミュニケーション(近くにいる大人との)がとりたくて、横にいたり手がとどいたりする友達の髪の毛を引っ張ることがある。横にいる大人とコミュニケーションがとりたくて、叩くことがある。  
喧噪・・・通学バスの中で喧噪があり、同乗の児童・生徒への刺激になっている。本人にとって刺激の少ない座席配置やバス介助職員のかかわりで対応している。